

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2779300348
法人名	医療法人 六三会
事業所名	グループホームさやまの里
訪問調査日	平成 21 年 9 月 18 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 14 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2779300348
法人名	医療法人 六三会
事業所名	グループホームさやまの里
所在地	大阪狭山市岩室2丁目185-11 (電話) 072-367-0294

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年9月18日	評価確定日	平成21年10月14日

【情報提供票より】(21年8月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.3

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	4 建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400円	

(4) 利用者の概要(8月4日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大阪さやま病院	日高歯科
---------	---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は同建物に、老健ホーム、通所介護、居宅支援事業所を擁しており、当グループホームは2階の一部に在り、開設して8年7ヶ月となる。職員の離職率は非常に低く、現職員11名中の9人が介護福祉士という人員配置は利用者・家族の信頼度の高さに繋がっているようだ。地元ボランティアが月～金曜日の日常生活に関わりを持つことは、利用者の社会性を持続させるのに役立つしていると考えられる。医療連携体制加算と、併設する老健常駐の看護師の応援体制は、重度化が進む中での介護に大きな安心感を与えている。毎年実施している利用者と職員の近場への一泊旅行は、両者の絆を強くしている。、認知症通所介護対応、老健と共同事業の「かいご教室」開催など、地域の在宅介護にも貢献している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、改善課題なしとしている。評価調査時の話し合い等から、自らの改善点を見出し改善に向けて、工夫努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回に引き続き、全員参加で自己評価作業に取り組み、日々の介護サービスのふり返りの拠りどころとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の開催。地域包括支援センター職員、地元地域の代表の方々や、家族の殆どが出席している。ホームからの諸事報告のほか、広範囲の意見交換が行われ、議事録も整備されている。ビデオによる状況報告は、介護サービスをより深くに理解するに役立つと考える。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議終了後に、家族懇談会を持ち、細かな気付きや要望を丁寧に聴き取るようにしている。課題の大小に関わらず、毎月、または随時にホーム会議に諮り、改善に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の諸行事や近隣寺社の祭礼に参加している。月～金曜日の日常生活にボランティアを受け入れており、利用者が社会的な接点を持ち続けるのに役立つ。と共に地域住民の認知症高齢者への理解を深めることにもつながると考える。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根ざした家庭として、なじみの関係を築いていく」とするホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、月1回のホーム会議には確認を繰り返し、日々の実践に根付かせている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域諸行事や近隣社寺の祭礼等に参加している。併設の老健との共同事業「介護教室」を定期的に開催し、地域の在宅介護を応援するなどの交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホーム会議で話し合い、全員参加で自己評価を行い、外部評価結果の確認と課題の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。地域包括支援センター職員、地元地域の代表の方々や、家族の殆ど全員が参加している。ビデオによる状況報告は、生活とサービスの実態がリアルに理解されるのに役立ち、意見交換も十分に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上各種の相談、制度改定に伴う情報や各種研修情報の収集や交換など、交流・連携を保っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほぼ全員の家族が参加する運営推進会議でのビデオ、毎月発行の通信紙により状況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、終了後の懇談会での意見・要望を丁寧に聴き取り、ホーム会議等で協議し運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、異動・離職の職員は少なく、安定した人員配置が保たれている。年2回職員面談の機会を設けるなど、働きやすい環境づくりへの努力がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた内部研修のほか、外部研修は各種情報での参加を奨励し、援助している。介護福祉士取得への応援体制をとり、現職員11名中9名が資格を得ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほぼ隔月に実施している市内同業者3、小規模事業者2による自主的会合に、また、近隣市の同業約20者とのスタッフ合同研修会や交換研修に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の老健施設からの入居者もあり、家族・本人の納得を得ての情報も十分である。その他は訪問、見学を重ねながらの入居で、馴染みをつくる努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年々重度化が進む中でも、人生の先達として学ぶことの発見が多く、共に生きて生きる関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴、社会歴を尊重し、やりたい、できる、できないを見極めながら、日々の暮らしを組み立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	府協会による介護計画表により、アセスメントを十分にを行い、家族・医師等の意見を参考に協議を重ねて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングのもと、定期的見直しと状態変化に応じた随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算体制を活かした医療的支援のほか、家族要請や必要に応じた外出支援、送迎支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族同意の下、協力医療機関をかかりつけ医とし、定期的受診による健康管理を行い、その他必要に応じた専門医の紹介と受診応援体制をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常時医療的措置が必要になった場合の、重度化・看取りについては対応できない、とする基本方針を家族・医師・スタッフ共に共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個性や社会歴を踏まえた場面場面での工夫で、諸事の対応やことばかけに注意している。個人情報管理も適切である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ADLが低下するなかで、個別対応と集まりとしての対応に配慮しながら、日々の暮らしにリズムをつくり希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や好みを出し合いながら全員で献立を考え、利用者は買い物、調理、盛り付け、片付けをその日の状態にあわせて参加している。利用者と共に食事を楽しみながらのさり気ない介助がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、希望や心身の状況に合わせて入浴している。必要に応じてシャワー浴、足浴を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ADLが低下し、夫々の出来ること、出来ないことの差が大きくなりつつあるが、生活歴や社会歴からの「その人らしさ」を探りつつの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候・天候・心身の状況にあわせて、散歩や買い物に出かけている。お出かけノートをつくり、偏りの出ないように心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠しないことを原則としている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導による規定の訓練以外に、ホームだけの訓練を毎月行い、夜間を想定したものも行っている。併設する各事業所職員との助け合い体制もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事と水分の必要摂取量を把握し、それらの確保について適切な支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングとダイニングは共に明るく、広い空間に調度品の配置も良く、落ち着いた雰囲気があり居心地の良さは十分である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	旧病院2階の一部を改装したホームである。個人差、男女差はあるが持ち込み家具などの設えで、マイルームのたたずまいが暖かく感じられる。		